

みどりの杜俳句会

山裾の土手道白き返り花

佐山けさ子

門先にコスモス揺れて山の家

高橋 きみ

ベランダに昼食会や秋晴るる

鈴木 啓子

溪沿ひや稲穂の垂るる常の道

馬場 芳

山風にコスモスなびく畑かな

田村 好子

送迎車までの歩行や秋時雨

高橋 ツ子

秋のばらうす紅八重の空へ向く

梅沢きくえ

音細か今朝より山の秋の雨

山崎 才子

七日間の入院終へて秋時るる

吉田 愛子

駐在所囲りに真つ赤曼珠沙華

飯野 トヨ

くじやく菊草にクッション指編みす

飯野はつ志

雑草の中凜と伸ぶあざみかな

松本 孚子

朝日さしあざみに出会ふ山の道

今村千鶴子

道塞ぐ釣舟草や寄せ直す

野口利江子

曼珠沙華川沿ひ左右をふちどれり

小林 和幸

秋服の丈長コーデイネイトかな

谷内 真里

青柿の落つる音なりトタン屋根

岡部富美子

くもの巣に雨粒ビーズ連らなりぬ

千野さき子

昼下がりとんぐり拾ふ小さな手

神田 昌美

冷え込むや月夜の屋根の照らさるる

関口 真吾

畝外れて秋時き種子の芽生えけり

小宮 勉

茗荷の子甘酢に漬けて赤さ増す

土屋 厚子

溪流に沿ひつややかなの冬葎

初雁 功子

トラクター野菊を押し田へ進む

山田 美子

白石短歌会

ざわざわと春夏秋と無意に過ぎ

落つかぬまゝ冬に入りゆく

渡邊美枝子

何時か植へて忘れしままのサフランの

急に目に入る小春日の庭

坂本 美江

急激の気候変動に桜木の

紅葉始まり冬支度忙し

白石 礼子

雲にかくれ月のお姿なく悲し

七回忌の夫恋う十三夜

渡邊阿里子



人権シリーズ

『六曜は計算式で決まる』

皆さんは、人生の祝い事やお見舞い、お返し等の日を決めるときに、六曜（大安・赤口・先勝・友引・先負・仏滅）を見て決めている方が多いのではないのでしょうか。

私たちの生活に根付いている六曜ですが、その根拠を知っている方が、どれほどおられるでしょうか。私は、今年の10月に行われた研修会で六曜が計算式で求められるものということを知りました。

元々日本では、月の満ち欠けを基準に暦ができていました。この暦に基づき六曜が計算されます。

では、六曜はどのように決まるのでしょうか。旧暦の月十旧暦の日付を6で割った余りが、0⇨大安、1⇨赤口、2⇨先勝、3⇨友引、4⇨先負、5⇨仏滅となります。つまり旧暦3月4日は、7割る6で、商が1で余りも1となり、赤口となります。では、10月19日はどうでしょう。29割る6は、商が4で余りが5となり、仏滅となります。このように計算すると、基本は6日に一度巡ってくるようになりますが、カレンダーを見ると、その巡り合わせがずれるときがあります。これは、旧暦の月が替わったときに、ずれるもので、計算式は変わりません。

現代では、国立天文台の発表する月の満ち欠けの標準中央値に基づき旧暦のカレンダーが作成されるようです。私たちの生活の中で何気なく使っている様々な風習等もその根拠を調べてみると、そうだったのかと気付かされることも多くあると思います。その根拠を知らずに行動することで、思わぬ差別をしていることもあるようです。すべての根拠を求めればよいということでもないかと思いますが、今までどおりを見直すことも必要なときもあるのではないのでしょうか。

東秩父村総務課長 柴原 正